

令和3年度 学校総合評価

1 今年度の重点目標に対する総合評価

昨年度に引き続き「学習活動（教科指導の充実）」「学習活動（実践的英語力の充実）」「学校生活（生活指導の充実と健康な心身の育成）」「進路支援（学力の伸長および進路目標の設定とその実現）」「特別活動（ボランティアと図書）」「その他（国際理解教育の充実）」の6項目を重点項目とし実践した。いずれの項目についても過年度の目標を見直し、生徒の実態に合わせ数値目標を若干変更した。

(1) 「学習活動（教科指導の充実）」

今年度の互見授業は例年通り1学期と2学期に実施した。ICTを活用した授業研究が進み、互見授業の参観回数が昨年を上回り、目標を達成することができた。オンラインによる研修にも積極的に参加し、自己研鑽を行った教員も多い。また、ICTサポーターやGIGAスクールサポーターによる校内研修や新学習指導要領に沿った評価に伴う校内研修を行うことができた。授業改善に向けて更なる情報共有や研修が不可欠である。各学期に行った生徒の学習に対する自己評価は、昨年とほぼ変わらないが、家庭での学習時間が減っていることが懸念される。適切な進路目標を設定し、その実現に向けてどのようなことをしなければならぬのか、生徒に主体的に考えさせる必要がある。

(2) 「学習活動（実践的英語力の充実）」

GTECの目標得点と実用英語技能検定の取得率が目標を下回った学年があった。コロナ禍での言語活動を工夫してはいるが、マスク越しのコミュニケーションの影響は大きいと思われる。しかし、英検準1級に挑戦する生徒は毎年増加傾向にあり、今年度は英語コースを問わず、5名が準1級を取得した。今後も合格実績を積み重ね、英語コースだけに限らず、生徒のコミュニケーション能力をさらに伸ばしていく工夫が求められる。

(3) 「学校生活（生徒指導の充実と健康な心身の育成）」

今年度も定期的な挨拶・服装指導を行い、生徒は概ね良好な状態である。コロナ感染症対策を更に徹底するため、生徒会自治委員会でアンケートを実施することにより感染防止への注意喚起を行ったり、保健の統一HRで手洗いの仕方を再確認する機会を設定したりし、生徒からの呼びかけを実践することができた。

教育相談では、心の悩みを抱える生徒が複数いたが、スクールカウンセラーや外部機関と連携しながら共通理解を図り、対応することができた。

(4) 「進路意識（学力の伸長および進路目標の設定とその実現）」

今年度は、卒業生による「進路ガイダンス」を行うことができなかったが、PTA主催の「職業人が語る会」は実施予定期日を変更して実施することができた。また、県外からの外部講師を招くことが難しい状況が続き、オンラインによる進路講話を実施し、学習の意義や進路意識を高めることに有効であった。学習時間については、平日も休日も目標を下回った。家庭での学習習慣について再度見直し、課題の出し方の工夫と合わせて、生徒の取組の計画性を養う必要がある。

(5) 「特別活動（ボランティアと図書）」

コロナ禍でも実施可能なボランティア活動について、生徒が主体的に考え探し出した活動を行うことで、目標を達成することができた。図書の活動においても「読み聞かせボランティア」を継続することができた。また、新着図書案内や図書館便りの発行回数と生徒の年間貸し出し総数を目標に掲げたが両者とも目標を達成することができた。

(6) 「その他（国際理解教育の充実）」

国際理解教育においては、英国語学研修が大変大きな成果を得ており、その成果をいろいろな機会を捉えて、生徒に発表していくことを継続的に行っている。コロナ禍のため、昨年度に引き続き今年度も英国語学研修が中止されたが、その代替研修として、ブリティッシュヒルズ主催のオンライン研修を3月に実施した。

2 次年度に向けての課題と方策

- ・新学習指導要領と観点別評価について更なる情報共有と研修が不可欠となる。各教科において新学習指導要領を見据えた授業について研究と実践を行うとともに教科相互に連携し、福岡高校に適した授業形態を検討する。
- ・県下で唯一の英語コースをもつ学校として、英語検定やGTECの実績を積み、さらに高い目標を設定できるカリキュラムを確立し、生徒の視野を広げる取り組みの充実が必要である。
- ・キャリア教育の一環として講演会の設定を工夫し、生徒ひとり一人が進路目標を定め、自己を振り返りながら主体的に学習できる取り組みを、評価と合わせて考えていく必要がある。
- ・今後もボランティア活動について生徒自身が探しだし、実践できる可能性を模索する。
- ・コロナ終息に向けて、英国語学研修の再開への準備を進めていく。